

〈分類1〉 学校教育

- 児童・生徒が一人ひとりの個性と能力を伸ばし、生きる力と豊かな人間性の形成につながるよう、幼児教育や学校教育の教育環境の充実を図ります。
- 安全で安心な子どもの居場所づくりに向けて、みんなで子どもを守り育てる社会環境づくりを進めます。

【施策】

- ・ 学校教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 5
- ・ 食育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 9
- ・ 家庭・地域と連携した学校づくり・・・・・・・・・・P10
- ・ 放課後の居場所づくり・青少年育成運動の推進・・・・・・・・P13
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・P14

【施策】

◇ 学校教育の充実

【主な事業】

(1) 学校施設維持管理事業

計 画	<p>・前年度に実施した学校訪問により判明した修繕箇所や、緊急に必要となる修繕料を予算措置。</p>		
実 績	<p>小学校【修繕】</p> <p>五戸小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受水槽配水管加工修繕 <p>切谷内小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災設備交換修繕 ・手洗器修繕 ・体育館暖房機用温度調節器交換修繕 ・雨水配水管修繕 <p>上市川小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裏平板ブロック修繕 <p>倉石小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関スロープ手摺修繕 <p>【工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内小学校エアコン設置工事 ・管内小学校トイレ洋式化改修工事 <p>切谷内小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部プレハブ倉庫屋根貼替工事 ・外壁補修工事 ・特別支援学級増設に伴う保健室改修工事 <p>上市川小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭照明設備増設工事 ・外壁補修工事 	<p>中学校【修繕】</p> <p>五戸中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各所便所小便器修繕 ・防災設備交換修繕（2回） <p>川内中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室床張替修繕 ・体育館内壁修繕 <p>倉石中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災設備交換修繕 <p>【工事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内中学校エアコン設置工事 ・管内中学校トイレ洋式化改修工事 <p>五戸中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各所便所修繕工事 ・体育館床修繕工事 <p>川内中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎壁面塗装工事 ・玄関屋根雨漏り修繕工事 ・校門前LED防犯灯取付工事 <p>倉石中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ修繕工事 ・受変電設備改修工事 ・教員住宅撤去工事 ・体育館排煙オペレーター修繕工事 	
評 価	成 果	<p>前年の10月頃に教育委員による学校訪問を行い、各学校の要望を把握することで、修繕計画をたて、順次修繕を実施した。</p>	
評 価	課 題 等	<p>学校施設維持管理については、事業費の大きい工事の十分な予算の確保ができないために、学校からの要望に対して迅速で十分な対応ができていない状況となっているので、ある程度の規模の改修等については、年次計画を作成し、計画的な予算措置を財政当局に要望する必要がある。</p>	

〈分類1〉 学校教育

(2) 特別支援教育支援員配置事業

点検	概要	様々な障害を持つ児童生徒に対して、学校生活上の介助や学習活動の支援などを行う特別支援教育支援員を必要な学校に配置し、児童生徒の教育の充実を図る。	
	計画	・小学校4校、中学校3校に合わせて20人の支援員を配置	実績 ・五戸小学校へ6人、切谷内小学校2人、上市川小学校2人、倉石小学校2人、五戸中学校3人、川内中学校3人、倉石中学校2人の計20人の支援員を配置した。
評価	成果	特別支援教育支援員を必要とする学校へ昨年度より4人増員して配置することにより、教員の負担を軽減し学級運営を円滑にすることができた。また、児童生徒の発達の段階や障害の状況に対応した支援を行い、障害による困難を克服するための教育を行うことができた。	
	課題等	特別支援教育支援員配置の増員配置の要望があり人材及び財源確保が難しい。	

(3) 語学指導外国青年招致事業

点検	概要	国の語学指導外国青年招致事業（JETプログラム）を活用して、語学指導助手（ALT）となる外国青年を招致し、小・中学校で英語授業の補助をしてもらうことで英語教育の充実を図る。また、国際理解教育の補助をすることで諸外国との相互理解を増進する。	
	計画	・人数 3人 ・配置校 7校 ・学校教育以外での英語指導の実施（ボランティア）	実績 ・人数 3人 ・配置校 7校（全小中学校） ・公民館講座で講師として町民への英語指導を行なった。また、町内幼稚園・保育園へ訪問し、ふれあいを通して英語に興味関心を広めた。
評価	成果	外国青年によるALTの配置により、小中学生が生の英語に触れることで英語教育の充実を図ることができた。 また、ALTが公民館講座の英語講師として講座を行い、外国の文化や英語に間近に触れることができ町民との交流も図られた。さらに、幼稚園、保育園訪問により、様々な文化や言葉に興味感心を広めることが出来た。 さらに、英会話番組の制作を行い、町ケーブルテレビで放送し、多くの町民に英会話に触れる機会を作ることが出来た。学校行事にも積極的に参加した。	
	課題等	来年度はALT3人が継続になるので、各小中学校と連携を密にし一層のALTの効果的な活用の検討が必要である。 また、住環境について、町指定のアパート以外にも住居の選択肢を増やしたり、町所有物件の活用による双方の住宅費の抑制等の改善が必要である。	

〈分類1〉 学校教育

(4) 奨学資金貸付事業

点検	概要	五戸町出身の学生及び生徒で学習能力があるにもかかわらず、経済的理由により就学が困難な者に対して、学資を無利子で貸与して人材の育成を図る。償還期間は、1年据置後から貸与期間の2倍の期間以内とする。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新規貸与者数 <li style="padding-left: 20px;">高校生 3人 <li style="padding-left: 20px;">大学生等 25人 ・償還金償還率(現年度分) <li style="padding-left: 40px;">95% 	実績
評価	成果	経済的理由により就学が困難な者14名に対し、奨学資金の貸付けによる支援を実施し、人材育成を図ることができた。	
	課題等	奨学資金償還金の未納者が有り、未納額は、全体では減少傾向となっているものの長期間にわたって未納の人もある。そのため、未納者と連絡を密にとりながら、未納者の経済状況などの把握をして返済に向けた取組みを継続的に行い、未納額の減少に努める必要がある。	

(5) コミュニティバス通学対応便事業

点検	概要	学校統合などにより、遠方から通学する児童生徒の通学手段として、学校と該当地区の間に通学のためのスクールバスを業者委託により運行する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行学校 <li style="padding-left: 20px;">五戸小学校、倉石小学校、 <li style="padding-left: 20px;">五戸中学校、倉石中学校 	実績
評価	成果	スクールバスを計画のとおり運行したことにより、遠隔地の児童生徒が円滑に通学することができた。	
	課題等	スクールバスの利用計画の変更の申出が多く、また期限が守られないことがあるため、ルールを担当の先生に再度周知する必要がある。	

〈分類1〉 学校教育

(6) 韓国沃川郡中学生交流事業

点検	概要	姉妹都市交流の一環として、大韓民国忠清北道沃川郡と五戸町の中学生の交流として、訪問と受入を隔年で実施し、相互の教育・文化の見聞や交流を通じて国際理解を深め、国際的視野を広げるとともに、次世代を担う人材の育成を図る。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・町内中学生 30人 ・訪問と受入を隔年で実施 ・中学生交流は7月下旬から8月上旬 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・受入人数 (生徒30名、引率者7名) ・平成29年7月19日から7月23日 ・ひばり野交流センター泊 ・担当校：五戸中学校
評価	成果	<p>日本との文化の違い、教育の仕方の違い等を感じ、国際交流の大切さや楽しさを感じることができた。</p> <p>言葉が通じなくても、積極的にコミュニケーションをとり、自信に繋げることができた。</p> <p>異国文化を感じ、国際感覚や視野を広めることができた。</p>	
	課題等	派遣日程調整を前年度末までに、各中学校及び沃川郡と協議の上、決定しておきたい。	

(7) 海外研修支援事業

点検	概要	海外の学校等での研修を希望する高校生の負担軽減を図るとともに、幅広い視野や優れた国際感覚を持つ次世代を担う才能あふれる人材を育成する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・年間募集 6名 ・町内に住所を有し、高等学校又は高等専門学校在学 ・広報による周知 ・海外研修事業に要する経費の一部を補助金として交付する。 ※経費の半分、又は25万円のいずれか少ない額 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・人数 1名 ・カナダ英語研修&クリスマスホームステイ ・平成29年12月26日から平成30年1月4日(9日間)
評価	成果	本人の感想では、英語は話そうとする気持ちが上達に繋がることを実感した。韓国人、メキシコ人、ブラジル人たちと友達になり「世界の共通語(英語)があることは素敵」と感じ、英語をもっと勉強したいと思った。	
	課題等	さらに周知を図り申請者を募りたい。	

【施策】

◇ 食育の充実

【主な事業】

(1) 学校給食地場産物活用推進事業

点 検	概 要	学校給食に地場産物を使用し、「生きた教材」として活用することにより、児童生徒が食材を通じて地域の自然や文化、産業等に理解を深め、地産地消並びに、健全な食生活の実践に向けて食育の推進を図る。	
	計 画	実 績	<p>地産地消・食育の観点から、学校給食食材に地場産物を取り入れ、地元の食材や産業についての理解を深めると共に郷土の文化や伝統への関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食食材に地場産物（米・ながいも・にんにく・倉石牛・りんごジュース・馬肉・味噌・なんぼんみそ等）を取り入れた。 ・給食だよりを活用し、地場産物の紹介をすることにより、地元食材使用の周知を図った。
評 価	成 果	地域の農畜産物を学校給食に活用することが、より身近に実感を持って、地域の食文化、産業や自然環境の恵みに対する児童・生徒の理解を深めることが図られた。また、地場産物に興味を持ち地元食材を活用した県の献立コンクールで二次審査の優良賞を受賞した。	
	課 題 等	食材調達は、安全・安心な給食を確保する観点から、地元産を含む国内産の食材の使用に努めているが、地場産物の食材は割高となるため使用回数が限られ、外国産野菜の使用頻度が高くなる。	

【施策】

◇ 家庭・地域と連携した学校づくり

【主な事業】

(1) 学校評議員事業

点 検	概 要	学校運営に関し、保護者や地域住民の意見を反映するとともに、協力を得ながら子どもたちの健やかな成長を担うことができる学校運営を行うため、各学校に5名以内の学校評議員を置き、学校運営に参画してもらう。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校評議員を委嘱 ・各学校評議員会議平均開催回数 2回 ・各学校評議員の意見の平均反映数 3件 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に学校から推薦された3～5名の方を学校評議員として委嘱した。 ・各学校評議員会議開催平均回数 2回 ・各学校評議員の意見の平均反映数 3件
評 価	成 果	各学校では、評議員から意見を聴取する会議を1～3回開催し、出された意見についても学校運営に反映しており、地域に開かれた学校を目指す運営が行われている。		
	課 題 等	学校評議員会議の開催については、各学校の実情に応じて一任しているため、学校ごとの開催回数に1回～3回とばらつきがある。地域に開かれた学校運営とするためにも、学校の現況説明を含め、最低年2回（前期・後期）の開催とすべきと考えるが、会議開催については、学校側に開催を強く促すべき性格の事業ではない部分を含んでいる。		

〈分類1〉 学校教育

(2) 学校支援地域本部事業

点検	概要	<p>学校の要望に応じて、教育活動を地域住民のボランティア活動で支援する体制をつくり学校で手が回らない部分を手伝うことで、教職員・地域住民が子どもたちと向き合う時間を増やし、教育環境の整備や地域の教育力の向上を図る。</p>	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の学校 2 校に学校支援センターを設置する。 ・学校支援コーディネーターを 5 人配置し、学校とボランティアの調整に当たる。 ・ボランティア活動日数 185 日 	実績
評価	成果	<p>地域住民のボランティアにより、学校の教育環境の向上と教職員が児童に向き合う時間を増やすことができた。</p> <p>学校側からは、家庭科の実習など担任一人ですべての児童を見ることが難しいため、ボランティアが協力してくれて助かっているとの声が聞かれた。</p> <p>学校支援コーディネーター・ボランティアが活動するようになり、学校が保護者や地域住民にとって行きやすい場となってきた。</p> <p>平成 30 年度も引き続き国県補助事業として行う予定となっている。</p>	
	課題等	<p>年度当初に教職員への PR 活動を行い、ボランティアでできることは雑用でも引き受ける旨周知して、今までこの事業を活用していなかった教職員にも事業を活用してもらったり、新しい分野でもボランティアを活用してもらったりすることが目標である。</p>	

〈分類1〉 学校教育

(3) 通学合宿事業

	<p>子ども達の生活する力の育成と地域の教育力の醸成を目的とし、家族と離れて、地域の自治会館等に宿泊しながら集団生活を送り、炊事、掃除等の生活体験をする。</p> <p>地域の大人と一緒に活動をし、地域の方々との交流を深めることで、子どもの自立心や生活する力の向上、協調性や我慢する心を育む。さらには、地域住民で実行委員を組織し、地域の大人が子ども達の生活や体験活動をサポートすることを通して、地域住民同士が交流をし、地域ぐるみで子ども達を育てていこうという機運を高める。</p> <p>町からの直接的な資金は投入されていない。</p>		
<p>点検</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="376 696 863 1339"> <p>アンケートの回答結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加児童 また参加したい90% 保護者アンケート 参加後の児童に変化あり70% 実行委員人数(参加実人数)20人 </td> <td data-bbox="863 696 1370 1339"> <p>アンケートの回答結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加児童 また参加したい 上市川小100% 倉石小100% 保護者アンケート 参加後の児童に変化あり 上市川小80% 倉石小50% 実行委員人数(参加実人数) 上市川小24人 倉石小20人 </td> </tr> </table>	<p>アンケートの回答結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加児童 また参加したい90% 保護者アンケート 参加後の児童に変化あり70% 実行委員人数(参加実人数)20人 	<p>アンケートの回答結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加児童 また参加したい 上市川小100% 倉石小100% 保護者アンケート 参加後の児童に変化あり 上市川小80% 倉石小50% 実行委員人数(参加実人数) 上市川小24人 倉石小20人
<p>アンケートの回答結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加児童 また参加したい90% 保護者アンケート 参加後の児童に変化あり70% 実行委員人数(参加実人数)20人 	<p>アンケートの回答結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加児童 また参加したい 上市川小100% 倉石小100% 保護者アンケート 参加後の児童に変化あり 上市川小80% 倉石小50% 実行委員人数(参加実人数) 上市川小24人 倉石小20人 		
<p>評価</p>	<p>成果</p> <p>上市川小と倉石小で行われたが、どちらも地域住民の協力を得て、大きな事故もなく無事終わることが出来た。アンケートを取ったところ、子ども達からは、自分から仕事に取り組むということを学んだ、今後時間を守って生活したいとの声が聞かれた。保護者からは、今までより進んで台所の手伝いをするようになった、自分のことをスムーズにできるようになった等の感想が聞かれ、参加後の子ども達に変化があったことがうかがえた。</p> <p>また、参加した地域住民からは、子ども達と触れ合うことができてよかった、今後も続けた方がよい、といった声もあった。</p> <p>課題等</p> <p>現在はこの活動を上市川小や倉石小のみで行われているが、他の学区や地域で実施できるようにしていく必要がある。</p> <p>現在は教育委員会が先導して実施しているが、住民等が主体的に計画したり、協力者を集めたりして取り組めるようになることが本来の事業の効果と考えている。今後、教育委員会としては予算も含め、通学合宿等の活動を通して、地域の人材や団体の育成につながっていくようなシステムを作る必要がある。</p>		

【施策】

◇ 放課後の居場所づくり・青少年育成運動の推進

【主な事業】

(1) 放課後子ども教室推進事業

点検	概要	放課後に学校の空き教室や公民館等を活用し、地域の方々の協力を得て、子ども達の安心・安全な活動拠点をつくり、スポーツや文化活動、地域住民との交流を通して、地域が一体となって心豊かでたくましい子ども達を育む環境づくりを目指す。開催日は、毎週水曜日と金曜日の放課後から17:00まで。年6回程度、土・日曜日を利用した体験活動を開催する。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・申込児童数25名。 ・日数開催は平日81日、土曜日28日、計109日。 ・放課後子どもプラン運営委員会開催 2回 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・申込児童数は定員25名に対し、34名。 ・開催日数は平日80日、長期休業日を含む土日11日、合計91日。 ・放課後子どもプラン運営委員会開催 2回
評価	成果	<p>放課後の時間を利用し、年齢の異なる子どもたちが一緒に工作、料理、自然学習、農作業、アウトドア体験をするなど、地域の方々の協力により、様々な体験をすることができた。参加者の保護者からも好評を得ている。</p> <p>学校、地域、家庭をつなげるこの事業は、今後の地域の教育力の向上の手段として必要な事業と考える。</p> <p>平成28年度までは町立公民館で開催していたが、地域連携や学校協働の観点から、平成29年度より五戸小学校での開催となった。</p>		
	課題等	<p>平成31年度までに小学校の敷地内や児童クラブに隣接した場所で当事業を行うといった、児童が参加しやすい環境にしていく計画が策定されている。</p> <p>未実施地区での事業実施のためにもスタッフの拡充が重要である。地域の実情に合わせた放課後子ども教室の実施のためにも、各地区での新規人材の確保について、広報手手段や謝金単価の増額等も含み対策をしていかなければならない。</p>		

○ 総括的評価・・・学校教育

◆ **学校教育の充実**としては、学校施設維持管理については、前年の10月末に教育委員による学校訪問を行い、各学校の要望を把握することで、修繕計画をたて、順次修繕を実施した。しかし、事業費の大きい修繕については、十分な予算の確保ができないために、学校からの要望に対応ができていない状況となっている。今後の大規模改修等については、文化教育系施設長寿命化計画を策定する予定であり、それに基づき改修を進めていく必要がある。

特別支援教育支援員については、支援員を必要とする学校に配置を行い、教員の負担を軽減することができたとともに、障害のある児童生徒が以前より普通学級で学習する時など、本人及び周りの生徒も落ち着いて学習することができるようになった。しかしながら、依然として支援員の要望があるが、人材や財源確保などの問題により十分に対応出来ていない面もあるため、県関係部局や町財務部局との情報交換を行いながら、学校の要望に伝えていく必要がある。

語学指導外国青年招致事業では、ALT 3名で学校での英語指導補助や公民館における英会話講座以外に、町内の幼児施設への派遣や、学校行事への積極的な参加や、英会話番組の制作を行い、町ケーブルテレビで放送するなど、多くの町民に英会話に触れる機会を作ることが出来た。また、住環境について、物件や費用面などの整備・改善が必要である。

奨学資金貸付事業では、経済的理由により就学困難者に対し貸付による支援を実施し、人材育成に寄与することができた。

奨学資金償還については、以前として未納者がおり、未納額は全体的には減少傾向ではあるが長期間にわたっての未納者もいることから、今後も継続して連絡を密にとりながら返済に向けた取り組みを実施し、未納額の減少に努める必要がある。

コミュニティバス通学対応便事業については、小学校統合から3～4年が経過し、利用に対して大きなトラブルがなく通学することが出来てきている。今後はスクールバス利用にあたり、綿密な計画作成やルールを順守するなど学校にも周知し、共通理解が必要である。

今回から新たに韓国沃川郡中学生交流事業と海外研修支援事業が加わった。どちらの事業も国際交流を通じて、国際的な視野を広め国際感覚を身につけ、次世代を担う人材の育成を目指している。今後も多くの子どもたちが経験し活性していきたい。

◆ **食育の充実**については、学校給食地場産物活用推進事業により、地域の農畜産物を学校給食に活用し、より身近に地域の食文化、産業や自然環境の恵みに対する児童・生徒の理解を深めることが出来た。また、地場産物に興味を持ち地元食材を活用した県の献立コンクールで二次審査の優良賞を受賞することができた。しかし、地場産物の活用は食育にとって効果的である反面、食材が割高で使用回数が制限される事業であるため、町当局に対する事業理解を十分促し、拡充できるよう推進していく必要がある。

- ◆ **家庭・地域と連携した学校づくり**については、学校評議員事業として、各学校で評議員から意見を聴取する会議を1～3回開催し、意見を学校運営に反映しており、地域に開かれた学校を目指す運営が行われている。

学校支援地域本部事業は、教師の負担軽減や地域教育力向上に効果をもたらすことから、未実施校へのPRを行い、新しい分野での活用など多くの学校で実施していくことが必要である。通学合宿事業では、地域の大人が子どもたちの生活や体験活動をサポートし、家族を離れて地元の自治会館等に宿泊しながら集団生活を送ることにより、地域の方々との交流が深まり、子どもの自立心や生活力の向上、協調性や我慢する心が育まれた。また、地域ぐるみで子ども達を育てていこうという機運の高まりもみられ、大変効果的な事業である。今後は2小学校区だけでなく、他の学区でも実施できるよう、教育委員会主導から、地域が主導して取り組めるようにしていく仕掛けづくり、予算面や地域の人材や団体の育成につながるシステムが必要である。

- ◆ **放課後の居場所づくり・青少年育成運動の推進**としては、放課後子ども教室推進事業を実施している。これは、地域の方々の協力を得て、放課後の時間を利用し、年齢の異なる子どもたちが一緒に工作、料理、農作業、アウトドア体験を地域の方々の協力により様々な体験をすることができるため、保護者からも好評を得ている事業であり、地域の教育力の向上の手段として有効な事業である。現在はスタッフの関係上、五戸小学校区でしか行っていないのが課題である。今後は他小学校区でも実施できるよう、スタッフ確保や育成も含め、事業関係者、学校と協議しながら取り組む必要がある。

〈分類2〉 生涯学習

- 生涯にわたる学習意欲に応えるために施設の充実を図り、各種研修・講習・学習会を積極的に開催します。
- 生涯学習活動を通じて、新たな知識の習得や人との出会いの場となるよう、住民の学習ニーズへの柔軟な対応や気軽に楽しめる環境づくりに努めます。

【施策】

- ・ 社会教育関連施設の充実・・・・・・・・・・・・・・・・P17
- ・ 生涯学習プログラムの整備と提供・・・・・・・・P18
- ・ 若い世代が参加しやすい社会教育の実施・・・・・・・・P23
- ・ 学習成果の活用・・・・・・・・・・・・・・・・P24
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・P25

【施策】

◇ 社会教育関連施設の充実

【主な事業】

(1) 移動図書館事業

点 検	概 要	図書館から遠隔地のため、図書館に行って利用しにくい地域の人たちのために、自動車に図書を積み込んで各地区と小学校を巡回して図書の貸し出しをする。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域巡回貸出冊数 1, 200冊 ・学校巡回貸出冊数 3, 800冊 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回5箇所での地域巡回及び小学校3校での巡回を実施した。 ・地域巡回貸出冊数 1, 087冊 ・学校巡回貸出冊数 4, 311冊
評 価	成 果	<p>移動図書館により、遠隔地域への図書貸出サービスが展開できた。また、地域を定期的に巡回することで、読書の推進が図られ、利用者の希望に応じた貸出をすることができた。</p> <p>一方で、地域巡回の昨年度の貸出冊数は計画より下回った。</p>	
	課 題 等	<p>利用者の拡大が難しい現状は以前と変わらない。今後は、地域巡回の利便性を周知するとともに、より利用しやすくするための巡回場所や日時等の見直が必要である。</p> <p>また学校巡回では、児童数の減少傾向にある中で、より多くの子どもたちに利用してもらおうよう、学校と連携した取り組みを検討する必要がある。</p>	

【施策】

◇ 生涯学習プログラムの整備と提供

【主な事業】

(1) 町民大学講座事業

点 検	概 要	生涯学習の一環として町民へ学習機会を提供することを目的に、年間を通じて各分野の講師を招いて講演を行う。また、施設見学などの移動講座も行う。		
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・開催講座数 10 講座 ・開催回数 11 回 ・受講者数 延べ500 人 	
評 価	成 果	講座では、様々な分野からの講師による講義を聞いたり、博物館等の様々な施設を見学したりすることで、町民へ多様な学習機会を提供することができた。		
	課 題 等	受講者数は以前と比べ減少傾向にあり、講座をより多くの方に受講してもらう工夫が必要である。広報の仕方や町民の生涯学習に対してのニーズの把握はもちろんだが、より多くの町民に受講してもらうためには、ターゲットや目的を絞り、多様な学びを企画する必要がある。		

〈分類2〉 生涯学習

(2) 公民館講座事業

	概要	<p>町民が生涯を通して生きがいのある充実した生活を送ることができるよう、公民館において町民一人ひとりの学習ニーズに対応する多種多様な講座で、主に受講者が作成などを行う内容で学びの場を提供する。</p> <p>講座は、年間を通して行う普通講座、2～3か月の期間で行う短期講座、川内・浅田・倉石の3地区の施設に出向いて行う移動講座がある。</p>	
点検	計画	<p>・参加延べ人数</p> <p>普通講座 2, 405人</p> <p>短期講座 135人</p> <p>移動講座 150人</p>	<p>・参加延べ人数</p> <p>普通講座 1,664人 (英会話、パッチワーク、ハッピーダンス、絵手紙等10講座)</p> <p>短期講座 131人 (苔玉作り、和裁「活動着(上着作り)」、スポーツ吹き矢教室の3講座)</p> <p>移動講座 159人 (楽々健康ヨガ、エコクラフトの2講座を3会場で開催)</p>
評価	成果	<p>公民館講座は、幅広い年代の町民が受講しており、普通・短期・移動の3種類の多様な講座を開講することや内容の充実を図りながら、進めていくことによって利用者が楽しく住民と交流する場を提供できた。また受講者のニーズに応えることができた。</p> <p>特に短期講座に希望者が多く毎回定員に達した。</p> <p>ハッピーダンス講座では、「曲にあわせ快適に運動し、楽しかった」、羊毛フェルトでは「毎回作るのが楽しみです」また、短期講座のスポーツ吹き矢教室は誰でも簡単に楽しめるスポーツで健康にも良いと好評であった。</p> <p>次回も同じ講師との要望も多かった。</p>	
	課題等	<p>普通講座の新規受講者の加入を促進するため、町民の学習ニーズを調査し新たな講座の開講、特に日中の講座を希望されている方もあり、講座を楽しく参加できるような企画を検討する必要がある。</p>	

(3) 公民館情報紙発行业

点検	概要	公民館事業への理解と関心を深めるために、公民館事業の情報紙「おんこ」を作成し、自治会を通して毎戸配付や回覧をすることで、公民館の利用者数の増加を目指す。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「おんこ」の発行 ・年間利用者数 35,500人 ・年間利用件数 2,000件 	実績
評価	成果	<p>公民館情報紙「おんこ」を発行することで、公民館事業等を住民へ効果的にお知らせすることができ、また公民館利用者の利便性を高めることができた。</p> <p>町民の中には次回の講座、行事予定等を楽しみにして、公民館情報紙「おんこ」の回覧を待っているという方もあった。</p> <p>平成25年度から町のホームページにも公民館情報紙「おんこ」を掲載することによって講座に申し込まれた方もあり、効果は少しずつあると思われる。</p>	
	課題等	<p>公民館情報紙「おんこ」と共に、町のホームページでの情報提供も続けていくが、現状では、紙面以外での情報入手が困難な状況にある方のためには依然として情報紙としての役割も大きい。</p> <p>今後とも見やすい、解りやすい公民館情報紙をめざし、情報提供していく必要がある。</p>	

(4) 文化賞・スポーツ賞事業

点検	概要	町の芸術文化の分野において、優れた創作活動を行っている個人または団体に対し「文化功労賞、文化賞、文化奨励賞」を、また町の体育・スポーツの振興発展への功績及びスポーツ大会において優秀な成績を収めた個人または団体に対し「スポーツ功労賞、スポーツ賞、スポーツ奨励賞」を授与する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化功労賞 2人 ・文化賞 25人 ・文化奨励賞 50人 ・スポーツ功労賞 2人 ・スポーツ賞 25人 ・スポーツ奨励賞 50人 	実績
評価	成果	文化賞・スポーツ賞は、毎年4月に開催する五戸町教育大会で表彰し、その内容が町の広報紙に掲載されることで、町民に広く活躍を知らせることができた。	
	課題等	<p>教育大会を欠席した受賞者に対し、個別に実家と所属校を回り賞状と記念品を届けた。しかし、量が多く範囲も広がったため、大変時間がかかった。</p> <p>また、学校宛のみで出席依頼を提出すると、ほとんどの場合本人へ確認なく欠席通知していることが判明した。学校宛だけでなく、受賞者本人及び本人の実家宛にも通知文を送付する必要がある。</p>	

(5) 町民文化講演会事業

点 検	概 要	町立公民館で講演会や演奏会などを実施することで、町民が芸術文化の関心を高めるとともに豊かな感性を育む機会を提供する。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・帰郷（ふるさと）コンサート 「小玉保節（五戸町出身）ピアノ・カルテット」 ・スプリングコンサート ターンバック他 ・十五夜ミニコンサート みんなで音楽を楽しもう！ 入場者総数 1, 300人 	実 績
評 価	成 果	<p>帰郷（ふるさと）コンサート「小玉保節ピアノ・カルテット」では、150人ほどの町民が来場しコンサートの内容に感激して帰る方も多かった。</p> <p>また「町民いこいの日」のコンサートや文化講演を毎年続けてほしいという要望も多かった。</p> <p>ターンバックによる「スプリングコンサート」も年々入場者も増え、町民の関心も高くなってきており、芸術文化の関心を高める機会を提供できた。</p> <p>多くの町民が楽しめるものとしてミニコンサートを開催、音楽の関心を高めることができた。</p>	
	課 題 等	<p>町民からは、コンサートや著名人の講演の要望等があるが、少ない予算内でできるだけ多くの町民が楽しめるもの等の実施を求められ難しい状況である。機会をとらえアンケートなどによる要望を把握し、検討する必要がある。</p> <p>今年度も自衛隊音楽隊演奏会による演奏会を要望していたが自衛隊の都合により開催できなかったが自衛隊の演奏会を楽しみにしている町民も多く、継続して要望していきたい。</p>	

(6) 町文化協会支援事業

点 検	概 要	町文化協会の事務局を町立公民館で担当、協会運営と文化団体の事業の推進を図るとともに、町の芸術文化団体相互の交流などの活動を支援するために、町文化協会へ町補助金を交付する。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 50団体 ・産業と文化まつり参加数 20団体・個人 ・芸能発表会参加数 20団体・個人 ・町補助金の交付 	<p style="text-align: center;">実 績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 54団体 ・産業と文化まつり参加数 15団体 ・芸能発表会参加数 12団体 ・町補助金を交付
評 価	成 果	補助金の交付及び事務局を担当することで、視察研修の実施や発表会への参加などができ、町の文化団体組織の活性化と芸術文化が図られた。	
	課 題 等	支援は、五戸町文化協会を対象とした事業であるが、文化協会に加入していないで文化・芸術活動をしている町民もいることから、町の芸術文化の振興のためには文化協会以外の活動に対してのアプローチも検討する必要がある。	

【施策】

◇ 若い世代が参加しやすい社会教育の実施

【主な事業】

(1) 成人式事業

点 検	概 要	二十歳になる新成人の町民を対象に式典と懇親会を行う。 式典と懇親会の企画運営は、新成人たちが自ら実行委員会を組織して行う。		
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人の参加率 70% ・新成人対象者 225 人中 144 人が参加 (64%)。 ・式典終了後、新成人企画イベントの時間を設けた (新成人から募集した動画の上映やインタビューなど)。 ・記念写真撮影終了後、各中学校に分かれて、新成人と恩師による懇親会を行った。 	
評 価	成 果	町の行事を新成人による運営で行うことで、新成人が地域との関わりを持つきっかけとなった。		
	課 題 等	<p>広く新成人以外も実行委員とする必要ではないだろうか (例えば、過去に新成人として実行委員活動を行った経験のある人に、当時の反省を踏まえて再度実行委員として活動してもらおう等)。</p> <p>また、新成人だけで完結するのではなく、地域を巻き込んだ企画を行うことで、若者と地域の接点生まれ今後の地域の活性化にもつながると考えられる。</p>		

【施策】

◇ 学習成果の活用

【主な事業】

(1) ボランティア活動支援事業

点 検	概 要	町内の各分野における特技を持った人材を生かし、町民の社会参加の場を提供するとともに、地域ぐるみの教育を目指した「学校等支援ボランティアバンク」にボランティアで活動する人をリストに登録し、学校等からの求めに応じて人材を紹介する。 登録の更新は、2年ごとに行う。		
	計 画	実 績	・登録人数 50人 ・登録件数 23件 ・活動件数 2件	・登録人数 61人 ・登録件数 26件 ・活動件数 1件
評 価	成 果	今年度は1件、奥州つつみ隊において活動実績があった。また、文化協会に登録依頼をすることで、前年度よりはるかに多くの活動団体を登録することができた。		
	課 題 等	登録数は増えたものの、ボランティア活動についての知名度はまだ低く活動も活発とは言い難い。周知方法について冊子配布以外の手段を探す他、どのようなボランティア活動が求められているのかについて、今一度確認する必要がある。		

○ 総括的評価・・・・・・・・生涯学習

◆ **社会教育関連施設の充実**としては、図書館に訪れることが難しい町民でも図書が借りられるように車で移動図書館事業として巡回している。実績として、地域巡回、学校巡回とも、昨年度の貸出冊数は計画より下回っており、利用者の拡大が難しい現状である。

今後は、より利用しやすくするための巡回場所や日時等の見直しが必要といえる。学校巡回では、児童数の減少傾向にある中で、より多くの子どもたちに利用してもらうよう、学校と連携した取り組みを検討する必要がある。

◆ **生涯学習プログラムの整備と提供**としては、生涯学習の拠点である公民館を中心に、町民大学講座、公民館講座を開催しており、あわせて延べ2,000人以上の町民が受講している。公民館講座においては、普通講座の他に短期・移動講座といった多様性のある講座で好評であった。町民文化講演会事業では、町立公民館で講演会や演奏会などを実施することで、町民が芸術文化の関心を高めるとともに豊かな感性を育む機会を提供している。五戸町出身者によるピアノ・カルテットのコンサートは来場者に変大好評であり、ターンバックによる「スプリングコンサート」も年々入場者も増え、町民の関心も高くなってきており、芸術文化の関心を高める機会となっている。今後は、著名人のコンサートや講演会の要望がある。少ない予算で町民の楽しめる内容が求められ難しい状況であるが、町民のニーズにこたえられるよう町財政担当課とも協議をしていかなければならない。また、新規階層に向けた企画や、聴講したくても会場での受講が困難な町民のために、町ケーブルテレビを活用した自宅での聴講について検討することも必要である。

◆ **若い世代が参加しやすい社会教育の実施**では、成人式事業として、新成人で組織する実行委員会の企画運営により実施しているが、新成人以外でのメンバーも実行委員になってもらい助言やアドバイス、また地域を巻き込んだ企画をしていくことで、今後の地域活性化が図られていくと考えられる。

◆ **学習成果の活用**では、町内の各分野における特技を持った人材を登録し、「学校等支援ボランティアバンク」として学校等からの求めに応じて人材を紹介するボランティア活動支援事業を実施しているが、今年度は1件の活動があった。また、町文化協会に登録依頼をすることにより、前年度より多くの活動団体を登録することができた。今後は、登録団体をもっと広く知ってもらい活用に向けてのPRの工夫や他の事業との連携が必要である。

〈分類3〉 スポーツ・レクリエーション

- 住民がそれぞれの年齢、趣味、体力に応じたスポーツ・レクリエーション活動を行うことができるよう、指導者の育成や施設・設備の改修等、安全に利用できる環境づくりを進めます。
- スポーツ・レクリエーション活動を通じて、住民同士の交流機会となるよう、気軽に参加できる機会づくりに努めます。
- 住民が自身の健康づくりの一環として行うことができる年齢層に応じた生涯スポーツの普及促進に努めます。

【施策】

- ・ 多様なスポーツ活動の普及促進・・・・・・・・・・・・・・・・P27
- ・ スポーツを楽しむ環境の整備・・・・・・・・・・・・・・・・P32
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・P33

【施策】

◇ 多様なスポーツ活動の普及促進

【主な事業】

(1) 町民登山・歩こう会事業

点検	概要	町民を対象にした県内及び隣県での日帰り登山及びハイキングをすることで、自然と触れ合いながら町民の健康増進とスポーツへ取り組むきっかけとしてもらう。		
	計画	・登山参加者 50人 ・歩こう会参加者 80人	実績	・登山参加者（秋田駒ヶ岳）※中止 ・歩こう会参加者（赤沼） 44人
評価	成果	町民登山は風雨が強く荒天により中止となった。 歩こう会は計画の5割程度の参加となった。個人では気軽にできないこともあり、参加することで町民の健康増進が図られた。 また、町民の交流の機会としても貢献した。		
	課題等	今年度の町民登山は悪天候のため、当日急遽中止とした。これまで町民登山で中止となった例はなかったため、明確な中止の基準を設ける必要がある。 近年の火山活動の活発化等により、開催場所を十分に検討し安全が確保されなければならない。 町委託バス等の利用制限も考慮し、県外でなくても町内の豊かな自然を活用して、開催時期や開催数等の内容の変更を検討する必要がある。		

(2) スポーツ推進委員事業

点検	概要	町のスポーツの推進のため、熱意と能力のある住民をスポーツ推進委員として町教育委員会が委嘱し、社会体育事業の企画・運営をしてもらう。また、その他の団体のスポーツ行事・事業に協力及び指導助言をしてもらう。		
	計画	・町民運動会・登山・歩こう会の企画運営への参画 ・各種スポーツ大会への協力 ・委員の行事等への延参加者数 80人 ・女性委員 4人	実績	・スポーツ推進委員は、町民運動会・登山・歩こう会の企画運営に参画した。 ・町老人スポーツ大会への協力をした。 ・委員の行事等への延参加者数 78人 ・女性委員 4人
評価	成果	スポーツ推進委員は専門的な知識と行動力で町の事業に参画しスポーツの振興に寄与した。女性委員は、登山等設備の整わない条件下での女性参加者に対する心身のケアができる貴重な人材であり、存在意義は大きい。		
	課題等	スポーツ推進委員は、専門的知識、技術の向上が必要であるため、県などで開催する研修会、講習会等により多くのスポーツ推進委員に参加してもらえるようにする必要がある。また、新たな委員の発掘・確保のためにも、体力や年齢にとらわれず気軽にスポーツを親しんでもらえるような新しい競技を広く町民に紹介・指導する等、スポーツ推進委員の知名度を上げていく必要がある。		

〈分類3〉 スポーツ・レクリエーション

(3) 生涯スポーツ振興事業等委託事業

点検	概要	「町民一人1スポーツ」を奨励し、心身ともに健康で豊かな生活を送るため、生涯スポーツを推進することを目的に、誰もが気軽に参加できる各種スポーツ大会や運動教室の実施についての企画、運営を（公財）五戸町スポーツ振興公社に委託している。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ大会及び教室等の参加者数 3,000人 県民スポレク祭派遣 1回 開催スポーツ大会数 9回 開催教室数 5回 各種講習会・支援事業 5回 	実績 <ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ大会及び教室等の参加者数 3,869人 県民スポレク祭派遣 1回 開催スポーツ大会数 8回 開催教室数 4回 各種講習会・支援事業 4回
評価	成果	生涯スポーツ振興事業等の委託では、行政では手が回らない部分を委託することで、多彩な大会等が実施され、多数の町民がスポーツに親しむことができた。高齢者を対象とした介護予防体操教室、スポーツ指導者育成事業としてスポーツ安全と救命処置の講習会を開催し好評であった。	
	課題等	高齢者のレクリエーションや各種教室の参加者はほとんどが女性であり成果も上がっているが、今後は男性を対象とした事業も検討し参加を促進し、健康増進を図ることが必要である。	

(4) 県民駅伝競走大会五戸町実行委員会事業

点検	概要	毎年9月第1日曜日に県下全市町村が参加して開催される県民駅伝競走大会に参加するために、町実行委員会を組織し運営費として交付金を交付するとともに、事務局を担当し運営を支援する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会の実施内容 選手選考、練習スケジュールの作成と実施、試走会、大会当日の選手サポート 練習会等回数 40回 練習会参加者数 30人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> 実行委員会の実施内容 選手選考、練習スケジュールの作成と実施、試走会、大会当日の選手サポートを行った。 練習会等回数 39回 練習会参加者数 36人 成績：総合15位（40市町村中） 町の部6位（22町中）
評価	成果	実行委員は、陸上の知識のある人材が長年メンバーとなっていることから、通年での練習を行うなど継続的に大会に向けた取り組みができた。 中学生、高校生の大会に向けての姿勢は他の模範となり青少年の健全育成に寄与した。	
	課題等	新たに実行委員に加わる人材が少ないため、町陸上競技協会と協力して人材の育成や勧誘が必要である。	

〈分類3〉 スポーツ・レクリエーション

(5) スポーツ少年団本部事業

点 検	概 要	スポーツを通じて青少年の心身を鍛錬するために、町内のスポーツ少年団を育成指導する、五戸町スポーツ少年団本部に運営費及び事業費に対する補助金を交付するとともに、事務局を担当し運営を支援する。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付 ・登録指導者数 70人 ・登録団員数 270人 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団本部へ補助金を交付した。 ・登録指導者数 69人 ・登録団員数 226人
評 価	成 果	<p>登録指導者団員数は減少傾向にあるものの、概ね目標値どおりの実績であった。</p> <p>県内競技会への申込みや交通手段の補助、各スポーツ少年団（単位団）の団員数に応じた助成金、県大会等出場助成金、本部委託事業として各種競技会を開催し、町青少年のスポーツ活動を支援した。</p>		
	課 題 等	<p>少人数の単位団や競技の特性上出場可能者数が少ない競技では、大会に参加するための交通手段の確保やそもそもの団員数の確保・維持が課題である。また、指導者および団員は規模に関わらず年々減少傾向にあるため、町スポーツ少年団運営に充てる登録料の収入も減少している。</p> <p>スポーツ活動の維持・発展のため、単位団同士の協力や、実情に応じた補助事業の創設、補助金の増額が必要とされている。</p>		

〈分類3〉 スポーツ・レクリエーション

(6) スポーツクラブ育成事業

点検	概要	<p>幼児から一般まで幅広い年齢層で、多様な競技を選択できるように地域に根ざした、総合型地域スポーツクラブの育成と、スポーツを通じた町の活性化を目指し、スポーツクラブを運営している（公財）五戸町スポーツ振興公社へ、スポーツクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催事業分として補助金を交付する。</p> <p>・スポーツクラブは、サッカー、野球、バスケットボール、ソフトテニス、陸上の5種目となっているが、陸上は、会員がいないため、休止状態となっている。</p>		
	計画	<p>・補助金の交付</p> <p>・クラブ強化事業 13回</p> <p>・指導者育成事業 3回</p> <p>・スポーツ教室・イベント事業 10回</p> <p>・広報活動 2回</p>	実績	<p>・クラブ運営の補助金を交付した。</p> <p>・クラブ強化事業 15回</p> <p>・指導者育成事業 4回</p> <p>・スポーツ教室・イベント事業 10回</p> <p>・広報活動 2回</p>
評価	成果	<p>スポーツクラブ育成事業は、運営組織の（公財）五戸町スポーツ振興公社に町が補助金を交付することで、スポーツ振興公社がクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催及びイベント事業、広報活動の4事業を展開し、ほぼ計画どおりの実績となった。スポーツ教室は各種競技の教室を開催し好評であった。特に女子サッカーでは県内外の大会で優秀な成績を収めた。</p>		
	課題等	<p>スポーツクラブは、陸上競技クラブの会員確保と現クラブ員や指導者の増員対策や事業の充実と拡大を図っていくことが必要である。</p> <p>また、少子化によりスポーツ少年団との関わりについて連携調整が必要となってくることが予想される。</p>		

(7) スポーツ大会出場祝金事業

点検	概要	<p>小・中学生のスポーツ競技力の向上と支援を目的に、予選を経て東北大会及び全国大会に出場する小・中学生の保護者に対し、出場に際する負担を軽減するため、東北大会出場者へは10,000円以内、全国大会出場者へは20,000円以内（合わせた限度額は20,000円）祝い金を支給する。</p>		
	計画	<p>・東北大会 7人</p> <p>・全国大会 4人</p>	実績	<p>・東北大会 10人</p> <p>・全国大会 1人</p>
評価	成果	<p>出場祝金を支給することで、子どもたちが努力して勝ち取った、上位の大会へ出場させるための保護者の負担を軽減することができた。支給要領を見直しと検討をし、支給する大会等の対象を明確にした。</p>		
	課題等	<p>団体競技は、支給する人数が多く、当初予算では把握が難しくなり補正対応となるため支給日まで日数がかかることが多い。学校やスポーツクラブ等への声かけを行い、対象者が出たら早めに申請や、申請漏れがないか確認する必要がある。</p>		

〈分類3〉 スポーツ・レクリエーション

(8) 町民運動会事業

点 検	概 要	町民の健康増進や親睦を図るために、全町内で自治会または地区ごとにチームを作り、子どもから老人までが参加できる競技で1日楽しむ、全町をあげたスポーツイベントとなっている。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・参加チーム数 14チーム ・延参加選手数 1,400人 ・ボランティアスタッフ 4人 	<p style="text-align: center;">実 績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加チーム数 14チーム(13の自治会と地区及び三沢基地アメリカ海軍の全14チームが参加) ・延参加選手数 1,400人 ・ボランティアスタッフ 3人
評 価	成 果	<p>49回目となる町民運動会は、町内の全地区が参加し、スポーツを通じて地域の結団と親睦を図るとともに、三沢基地所属のアメリカ海軍チームを特別招待することで、国際交流の推進が図られた。</p> <p>また、ボランティアスタッフ3名を救護係に充て、町民運動会への新しい参加方法を確立した。</p>	
	課 題 等	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の少子高齢化に伴い選手の確保が難しくなっているチーム(自治会)が多くなってきている。開催時間、競技種目の内容(魅力)、競技数等を少しでも町民が参加しやすいように検討する必要がある。 ・町職員を多数動員しており、職員の負担が大きい。ボランティアスタッフを募り更なる町民参加型の事業とするために、募集方法等について改善を検討すべきである。 	

【施策】

◇ スポーツを楽しむ環境の整備

【主な事業】

(1) スポーツ施設の管理事業

点 検	概 要	<p>ひばり野公園（陸上競技場、野球場、サッカー場、テニスコート、プール）、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターの施設を町民のスポーツ活動の場として提供しており、町民が利用しやすい施設とするために、施設管理を指定管理者に委託している。また、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の不良箇所の修繕を行う。</p>																	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・回転遊具購入 ・プレハブ小屋購入 ・施設利用者数 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">ひばり野公園</td> <td style="text-align: right;">70,000 人</td> </tr> <tr> <td>屋内トレーニングセンター</td> <td style="text-align: right;">28,000 人</td> </tr> <tr> <td>スポーツ交流センター</td> <td style="text-align: right;">10,000 人</td> </tr> <tr> <td>倉石スポーツセンター</td> <td style="text-align: right;">8,000 人</td> </tr> </table>	ひばり野公園	70,000 人	屋内トレーニングセンター	28,000 人	スポーツ交流センター	10,000 人	倉石スポーツセンター	8,000 人	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・公園噴水撤去及び花壇整備工事 ・回転遊具購入 ・プレハブ小屋購入 ・施設利用者数 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">ひばり野公園</td> <td style="text-align: right;">57,597 人</td> </tr> <tr> <td>屋内トレーニングセンター</td> <td style="text-align: right;">31,875 人</td> </tr> <tr> <td>スポーツ交流センター</td> <td style="text-align: right;">9,072 人</td> </tr> <tr> <td>倉石スポーツセンター</td> <td style="text-align: right;">8,890 人</td> </tr> </table>	ひばり野公園	57,597 人	屋内トレーニングセンター	31,875 人	スポーツ交流センター	9,072 人	倉石スポーツセンター
ひばり野公園	70,000 人																		
屋内トレーニングセンター	28,000 人																		
スポーツ交流センター	10,000 人																		
倉石スポーツセンター	8,000 人																		
ひばり野公園	57,597 人																		
屋内トレーニングセンター	31,875 人																		
スポーツ交流センター	9,072 人																		
倉石スポーツセンター	8,890 人																		
評 価	成 果	<p>ひばり野公園、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターは、(公財)五戸町スポーツ振興公社と新たに指定管理委託(平成26年度～30年度)をすることで、経費の節減ときめ細かな施設の管理及び利用者の利便性の向上を図ることができた。</p> <p>また、予定した備品購入は予定どおり実施し施設の良い管理ができた。施設利用者数については、ひばり野公園以外は概ね計画どおりであった。また、当初予定の無かった噴水撤去及び花壇整備工事については、補正予算で実施した。</p> <p>施設利用者数については、ひばり野公園以外は概ね計画通りであった。ひばり野公園の利用者減の主な理由は、ヴァンラーレ八戸の使用が通年でなくなったことや、五戸中学校部活動での利用人数の減少、悪天候が考えられる。</p>																	
	課 題 等	<p>ひばり野公園は開園から30年以上が経過し、各施設や設備の老朽化が進み大規模改修の必要な箇所がある。平成37年度には青森国体サッカー競技の一部がひばり野公園で実施される予定であることから、財政担当課や関係機関と協議し計画的な予算措置が必要である。</p> <p>その他施設設備の突発的な故障にも対処が必要となっている。</p>																	

○ 総合的評価・・・スポーツ・レクリエーション

◆ **多様なスポーツ活動の普及促進**としては、町民登山や歩こう会などの教育委員会が主催する事業は、スポーツ推進委員の協力で初めての人や一人だけでも楽しく参加できる体制となっており、健康志向の高まりから人気のある事業となっている。この事業を更に多くの町民が参加しやすいようにするため、県外でなくても町内の豊かな自然を活用し、開催時期や開催数等の内容の変更と悪天候時の明確な開催・中止基準を検討する必要がある。また、例年多くの参加者となっているが、参加者によるサークルなどの組織結成が成されやすい仕組みを検討する必要がある。また、委託事業の生涯スポーツ振興事業は、高齢者のレクリエーションや各種教室の参加者はほとんどが女性であり成果も上がっているが、今後は男性を対象とした事業も実施し参加を促進し健康増進を図ることが必要である。県民駅伝競走大会では、実行委員は陸上の知識のある人材が長年メンバーとなっていることから、通年での練習を行うなど継続的に大会に向けた取り組みができていますが、新たに実行委員に加わる人材が少ないため、町陸上競技協会と協力して人材の育成や勧誘が必要である。スポーツ少年団本部事業では、本部運営業務の支援を行っているが、団員数の減少により財源確保が難しくなってきたため、支援方法について検討する時期に来ていると思われる。スポーツクラブは、概ね事業計画とおりに実施出来ており、各種目の教室も好評であったが、陸上競技は会員がいないため、休止状態となっている。陸上競技クラブの会員確保と他種目の現クラブ員や指導者の増員対策、事業の充実と拡大を図っていくことが必要である。また、少子化によりスポーツ少年団との関わりについて連携調整が必要となってくるとと思われる。49回目となった町民運動会は、町内の全地区が参加し、スポーツを通じて地域の結団と親睦を図ることができた。近年は、参加者の減少により選手の確保が難しくなっているチームが多くなってきており、現在の形式で継続するならば、開催時間、競技種目の内容、競技数等を少しでも町民が参加しやすいように検討する必要がある。

◆ **スポーツを楽しむ環境の整備**としては、本町のスポーツ活動は、ひばり野公園とその関連施設及び倉石スポーツセンターを拠点としており、これらをあわせて年間に約10万7千人が施設を利用し、比較的利用しやすい施設となっているのではないかと考えられる。さらに、天然芝と人工芝のサッカーグラウンド2面を有し、五戸ドームを含め、県内でも有数の施設を町民が気軽に利用できる環境となっている。一方で、様々な施設の老朽化による維持管理費の増大という問題を抱えており、計画的な管理が必要となっている状況にある。

〈分類4〉 地域文化

- 本町の自然、歴史、文化等の郷土に関する文化財の保護に努めるとともに、先人が残した郷土の貴重な文化財を地域資源として有効活用できるよう保護体制の充実を図ります。
- 学校教育・生涯学習活動を通じて、地域の文化や歴史に対する住民の関心を高める取り組みを推進し、町内の地域文化と郷土芸能を後世に残す取り組みを支援します。

【施策】

- ・ 保存団体、指導者の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・P35
- ・ 文化財の保存活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・P36
- ・ 文化財の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P38
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P39

【施策】

◇ 保存団体、指導者の育成

【主な事業】

(1) 産業と文化まつり事業

点 検	概 要	文化活動を行っている団体、個人が、発表の場として、「産業と文化まつり」の文化部門として公民館及び五戸ドームでの作品展示及び公民館でのステージ発表を行う。		
	計 画	・参加団体数 50団体	実 績	出展、出店団体数 42団体 芸能発表団体数 15団体 計参加団体数 57団体
評 価	成 果	文化まつりは、町民の日ごろの活動成果を発表できる貴重な機会であり、町民の文化活動に親しむ機会を提供できた。計画参加数を大きく上回り、町の活動の活性化に繋がった。		
	課 題 等	準備期間において、文化まつりに使用するフック、クロスの不足の訴えがあり対処に難航した。公民館と連携を密にし、備品の個数を明確に把握する必要がある。 また、舞台発表において割り当てにかなり難航した。なるべく日時に偏りが出ないように割り当てたいが、どうしても偏りが出てしまうため、発表団体と綿密に協議し共通理解をしなければならない。		

【施策】

◇ 文化財の保存活動の推進

【主な事業】

(1) 町文化財管理事業

点 検	概 要	町所有の文化財の保存管理、調査を行うとともに、臨時職員2名を雇用し、未整理文化財の整理作業を行い町内の歴史の把握を行う。 開発等に伴う遺跡調査を実施し、遺跡の適切な保存に努める。 文化財関係資料の貸出等に対応し、町内文化財の周知に努める。		
	計 画	・文化財整理作業日数 10日 ・町有文化財環境整備回数 3回	実 績	・文化財整理作業日数 11日 ・町有文化財環境整備回数 2回 (草刈等)
評 価	成 果	町文化財の整理等により、町民及び県内外の関係者への五戸町の歴史理解に寄与した。 五戸町出身の思想家「江渡狄嶺」関係資料の寄贈に伴い、搬入作業を実施した。(委託) 青森県指定天然記念物「わむら(上村)のカシワ」、の樹木診断を実施し樹勢把握をし、適切な管理に努めた。 五戸町指定無形民俗文化財に「川原町裸参り」を指定し、無形民俗文化財の保存活用を図った。 埋蔵文化財、写真等資料の貸出により五戸町管内の文化財の魅力を発信することができた。 開発等に伴う遺跡調査等は、個人住宅建設に関係し工事立会を1件実施した。		
	課 題 等	既存の未整理の文化財に加えて、近年は文化財の寄贈申し入れの事例が増えているため、今後も継続的に事業を実施する必要がある。 天然記念物(樹木)については、定期的に枝折れ、倒木等の危険がないか確認する必要がある。		

(2) 伝統芸能継承活動事業

点検	概要	小学生に対し、伝統芸能に触れる機会をつくとともに、継承活動を進めていくために学校で行う伝承活動について、指導者への謝金や道具の修繕などの支援をする。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・指導回数 65回 ・発表回数 4回 	実績 五戸小学校の児童が和太鼓（五戸太鼓）を通常は月2回程度、長期休暇等は月5回程度の活動を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導回数 37回 ・発表回数 8回
評価	成果	伝統芸能継承活動は、小学生の伝統芸能への理解や後継者育成に寄与した。各種祭りや芸能発表会等に参加することにより、伝統芸能の普及発展に寄与した。	
	課題等	太鼓指導者が諸事情により3か月間不在となり、五戸小の顧問の教員が指導にあたった。指導者が長期的に指導不可能となった場合の対応について、対策を講じなければならない。	

【施策】

◇ 文化財の活用

【主な事業】

(1) 県重宝「旧圓子家住宅」管理事業

点 検	概 要	青森県重宝に指定されている「旧圓子家住宅」の管理及び見学者への公開を行うことにより、文化財保護への理解を深め、五戸町の歴史を後世に伝えていく。 臨時職員1名を雇用して管理を行う。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・管理実施日数 30日 ・見学者数 50人 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・管理実施日数 35日 ・見学者数 109人
評 価	成 果	旧圓子家住宅の見学者数が計画を上回り、町民の郷土史理解の深化に寄与した。 パンフレットを活用し、町内外へ当該文化財を周知することができた。 消防設備点検を実施し、法令に基づき保存環境の適正化を推進した。		
	課 題 等	旧圓子家住宅は、今後修繕等が必要になることが予想されるため、適正な管理が求められる。 入館者数の増加のため、関係機関と協力して周知を図る必要がある。		

(2) 歴史民俗資料保管展示施設設置準備事業

点 検	概 要	旧豊間内小閉校に伴い、校舎等を歴史民俗資料保管展示施設として再整備する事業である。検討委員会を設置し、展示施工や名称（愛称）について意見を伺った。 実施設計書に基づき展示施工業務（委託）を実施する。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会 2回 ・展示施工業務（委託） ・指定管理者の募集・決定 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会 2回 ・展示施工業務（委託） ・指定管理者決定
評 価	成 果	検討委員会で展示施工について、参考となる意見を伺うことができた。 名称については「ごのへ郷土館」、愛称については設けないとの方針を決定した。展示施工については、設計書に基づき完了することができた。 指定管理者については、「ごのへ郷土館管理運営委員会」とすることに決定することができた。		
	課 題 等	平成30年度の全面開館に向けて、展示構成案を基に展示品列品作業を実施する必要がある。開館式典を実施するため、備品等整備と併せて諸準備を行う必要がある。管理については、指定管理者と情報を共有し、適切な管理、施設の有効利用に努める必要がある。		

○ 総括的評価・・・地域文化

◆ **保存団体、指導者の育成**としては、文化まつり事業では、町民の日ごろの活動成果を発表できる貴重な機会であり、町民の文化活動に親しむ機会を提供できている。参加数も計画を上回り、活動の活性化に繋がっている。一方で、参加者の増加により、展示用部品等の調達で問題が発生したが、これらの件に関しては、早めに対策を練って対応する必要がある。また、舞台発表の時間割り当てについて、毎回調整が難航することから出演団体と十分な協議をして共通理解を図ることが必要である。

◆ **文化財の保存活動の推進**としては、町文化財の整理等により、町民及び県内外の関係者への五戸町の歴史理解に寄与した。しかし一方では、未整理の文化財が多数あるため、今後も継続的に事業を実施する必要がある。

小学生に対して行う伝統芸能継承活動は、様々な行事等において発表し町民から評価されているが、参加児童の減少、指導者の後継者などの問題が課題となること、学校と連携しながら取り組みを行っていく必要がある。

◆ **文化財の活用**では、旧圓子家住宅管理については、継続的な公開により、町民の文化財保護に対する理解と関心の高まりを大きくしていく必要がある。なお、今後修繕等が必要になることが予想されるため、適正な管理が求められる。歴史民俗資料保管展示施設設置準備事業は、建物改修工事を平成28年度、展示工事を平成29年度に実施し、30年度当初に開館する予定であるため、準備、作業を継続して行う必要がある。なお、展示施設の指定管理者が決定し、今後の管理運営について情報共有し、適切な管理と施設の有効利用に努める必要がある。